軽種馬生産技術総合研修センター マンスリーレポート 55

軽種馬生産技術総合研修センター
Center for Equine Breeding Technology

“北京装蹄技術研修を終えて”パートⅠ

昨年の９月24日～27日まで、公益社団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルが主催する中国・北京への競馬に関する技術交流促進事業の一環として行われた「装蹄技術現地研修」の講師として北京に派遣され、研修を実施しましたので、その内容を紹介します。

１．受講者

北京馬術運動協会の会員等であり、牧場または乗馬クラブサラブレッドの装蹄を担当している技術者または装蹄師が対象でした。

２．北京の装蹄事情

北京近郊で飼養されている5,000頭の馬のうち、装蹄を行っているのは2,000頭程であり、北京ではかなりの装蹄需要がありますが、実際には装蹄師は20名程度で、不足しています。装蹄師の中には、クラブに所属している人の他、独立開業している人もいます。獣医師と装蹄師は別々に活動しており、ヨーロッパの管理方式に近くなっています。ただし、装蹄師の技術レベルはそれほど高くはありません。このため、熟練装蹄師は装蹄代が１頭当たり500元（８千円）、１ヵ月の収入が５万元（80万円）以上にもなります。子馬は、正常であれば離乳する６ヵ月齢から削蹄します。もちろん肢や蹄に異常があれば１ヵ月齢から矯正を始めます。乗馬は通常、蹄鉄を６～８週間で取り替え、競走馬の場合はレースと訓練毎に蹄鉄を履き替えさせるので、蹄鉄の取替えはもう少し回数が多くなります。

３．指導内容

自己紹介に続き、「アシや蹄を学ぶ」と題して中国語に訳したスライドを用いて、蹄や装蹄の基本的な知識や、個々の馬に対する装削蹄方針の立て方、肢軸異常を含めた肢蹄のトラブルの症例紹介、跛蹄にとって重要な４ Point Trimの方法と削蹄の基本原則、競走用蹄鉄の特徴など、33項目にわたり解説しました。

講演後の質疑応答では、①不同蹄をどのようにして治療するか、②特殊蹄鉄で治療できる範囲、③新生子馬の蹄が立っている場合の対処法、④白い蹄と黒い蹄の硬さの違い、⑤運動内容に応じた蹄鉄のタイプ、⑥芝馬場の場合の滑り止めの蹄鉄の打ち方、等々について活発な質問が寄せられ、それらについて適宜、説明・回答しました。

講演後は、北京華牧家禽育種中心（センター）で飼養されている種牡馬ダンシングカラー（浦河：バンダム牧場生産）を使って、講義内容に基づいて装削蹄判断を行い、主に蹄壁の凹湾した蹄形を矯正する方法として、４ Point Trimの実施手順を披露しました。その後、アラブ種とアハルテケ種など３頭について、削蹄方針を説明しながら参加者の中から４名を選出して、彼らに削蹄の実習指導を行いました。

４．意見交換会

（１）中牧集団代表者の談話（北京華牧家禽育種中心・趙鳳龍総経理）

はじめての研修を当牧場で実施できたことを嬉しく思っています。今回は北京馬術運動協会との共催なので、北京馬術運動協会が多くの装蹄関係者を集めてくれました。北京馬術運動協会と協力して事業を行うのは初めてですが、今回の成功を受けて、今後とも北京馬術運動協会と協力して、この種の研修を実施し、結果として中国の馬産業に貢献できれば嬉しく思います。

（２）北京馬術運動協会代表者の談話（姚革副主席）

参加者から、４ポイント削蹄法という削蹄法を初めて知って啓発されたという感想が聞かれました。今後も引き続き、このような研修を実施していただき、次は装蹄まで含めて講習していただければさらに効果的だと考えています。当初は20名程度の参加を見込んでいましたが、実際には30名ほどの関係者を集めることができ、装蹄についての関心と需要が高まっている証拠と受け止めました。中国では今はまだ乗用馬が中心なので、厚い蹄鉄を履かせることが一般的で、競走馬の装蹄とは多少の相違があると思いますが、今回の研修を契機にして、競走馬を含めて中国の装蹄技術のレベルアップを図って行きたいと考えています。

（次回に続く）

筆者の実演（ダンシングカラー）

装蹄師（自称）への実技指導